

2025（令和7）年度 現代文化学部シラバス

こども文化学科 （2022年度の入学生）

基礎科目（必修）		
科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
22LIT102	アカデミック・ライティング	2

基礎科目（選択）		
科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
22LIT103	文章表現法	1～4
22HUM108	文化人類学	1～4
22JUN108	合唱音楽	1～4
22HUM106	音楽療法	3～4
22HUM107	美術療法	3～4
22PSY301	臨床心理学	3～4
22LIT104	読書論A	2～4
22LIT105	読書論B	2～4

専門科目（必修）		
科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
22EDU201	こどもと音楽表現A	1
22CHI304	こども文化セミナーBa（大竹）	4
22CHI304	こども文化セミナーBa（田尻）	4
22CHI304	こども文化セミナーBa（井上）	4
22CHI304	こども文化セミナーBa（田中路）	4
22CHI305	こども文化セミナーBb（大竹）	4
22CHI305	こども文化セミナーBb（田尻）	4
22CHI305	こども文化セミナーBb（井上）	4
22CHI305	こども文化セミナーBb（田中路）	4
22CHI306	卒業論文・制作・研究	4

専門科目（選択・課程必修）		
科目ナンバリング	授業科目名	配当年次
22PSY203	教育相談	4
22NUR422	保育内容総論	4
22NUR423	教職・保育実践演習	4
22NUR203	在宅保育論	4
22CHI309	こども文化特講C	1～4
22CHI310	こども文化特講D	1～4
22EDU302	ピアノ表現法Ⅴ	3～4
22EDU303	ピアノ表現法Ⅵ	3～4
22EDU304	ピアノ表現法Ⅶ	3～4
22EDU305	ピアノ表現法Ⅷ	3～4

実習・実習指導（選択・課程必修）		
22NUR434	教育実習（幼Ⅱ）	4

授業科目名	こども文化セミナーBa	担当教員名	井上 救				
コード	22CHI304	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
			○				
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
○	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。						
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。						

【授業の概要】

本授業は、前年度科目の「こども文化セミナーAa」「こども文化セミナーAb」に引き続き、コンピュータ・グラフィックスやデザインの要素を生かした造形作品（絵本、アニメーション、玩具や遊具、楽器など）制作について、アイディアや技法、知識について実践を通じて深く学び、卒業研究、卒業制作に向けて完成度を高めるため着実な準備を進めて行く。受講生の興味、関心を基に各自でテーマを設定し、情報収集や検証を積み重ね、こどもに対し制作作品がどの様に係わって行くのかを調査、研究し、4年間の学びの集大成となる様、自ら研鑽し、質の高い作品を目指す。基本的に、授業時間は卒業制作および制作ノートの作業を進める時間として充てることになるので、情報の共有や意見交換などの場として有効に活用し進めること。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③		
1 こどもに関わるデザインに対する知識を得ることができる。		○			
2 デザイン要素をいかすために必要なスキル(情報収集力、問題解決力、美的感性など)を体得することができる。		○			
3 一つひとつの積み重ねから形を作り上げる達成感を得ることで、感動を伝えることの大切さを実践できる。		○			

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション:授業の概要 作品制作	井上	予習(20分) 自主制作 素材、方法の検証 復習(25分) 作業進行の記録をまとめること
2	作品制作	井上	予習(20分) 自主制作 素材、方法の検証 復習(25分) 作業進行の記録をまとめること
3	作品制作	井上	予習(20分) 自主制作 素材、方法の検証 復習(25分) 作業進行の記録をまとめること
4	作品制作	井上	予習(20分) 自主制作 素材、方法の検証 復習(25分) 作業進行の記録をまとめること
5	作品制作	井上	予習(20分) 自主制作 素材、方法の検証 復習(25分) 作業進行の記録をまとめること
6	作品制作	井上	予習(20分) 自主制作 素材、方法の検証 復習(25分) 作業進行の記録をまとめること
7	作品制作	井上	予習(20分) 自主制作 素材、方法の検証 復習(25分) 作業進行の記録をまとめること
8	作品制作	井上	予習(20分) 自主制作 素材、方法の検証 復習(25分) 作業進行の記録をまとめること
9	作品制作	井上	予習(20分) 自主制作 素材、方法の検証 復習(25分) 作業進行の記録をまとめること
10	作品制作	井上	予習(20分) 自主制作 素材、方法の検証 復習(25分) 作業進行の記録をまとめること
11	作品制作	井上	予習(20分) 自主制作 素材、方法の検証 復習(25分) 作業進行の記録をまとめること
12	作品制作	井上	予習(20分) 自主制作 素材、方法の検証 復習(25分) 作業進行の記録をまとめること
13	作品制作	井上	予習(20分) 自主制作 素材、方法の検証 復習(25分) 作業進行の記録をまとめること
14	作品制作	井上	予習(20分) 自主制作 素材、方法の検証 復習(25分) 作業進行の記録をまとめること
15	作品制作及び中間講評	井上	予習(20分) 夏季休業中の課題をまとめる 復習(25分) 作業進行の記録をまとめて提出

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	特になし
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】 作業工程、制作方法など授業内で適宜フィードバックを行う
【成績の評価方法】 授業参加度:50％ 課題制作作品:50％ 合計:100％ 1. どの程度、積極的に授業時の活動に参加したかを「授業参加度」として評価する。 2. 課題制作作品は完成度、オリジナルの創意工夫がみられるか等、総合評価とする。 【生成AI利活用（ 無 ）】 【 ルーブリック評価の活用（ 無 ）】
【履修申請上の条件】 ・3年次科目の「こども文化セミナーAa」および「こども文化セミナーAb」を履修済みであることが望ましい。 ・PCを使用する場合、ソフトの数に制限があること、また、作業場が限られるので、受講者が多い場合は要注意。 ・加工用の素材は、こちらで用意するものと本人負担するものがあるので、指示をよく確認すること。 ・アイデア出しや作業確認のため、エスキース帳(線の入っていないノート)を用意すること。
【教科書】 特になし
【参考書】 必要に応じ、授業内で紹介
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 特になし
【オフィスアワー】 前期:月曜日12:10～13:00、後期:火曜日12:10～13:00
【教員連絡先】 sinoue@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 時間内で作業が終わらない場合は、自主的に時間を設けて制作をすることが望ましい。 制作活動は工作機械、塗料、接着剤など汚れる可能性のあるものも扱うので、そのつもりで取り組むこと。 危険を伴う道具や工具も取り扱う場合もあるので、指導に従うこと。

現代文化学部			2025(令和7)年度					
授業科目名	こども文化セミナーBa	担当教員名	大竹 聖美					
コード	22CHI304	区分 (必修・選択)	卒業必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生	
			○					
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。							
○	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。							
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。							
【授業の概要】								
●アクティブラーニング＜こども文化＞～地域・環境・多文化・共生の視点から～●＜その2・個人のテーマを追求する＞（前半戦） こども文化の領域における様々な課題を解決していくアクティブラーニングの講座である。 本講座は、こども文化や地域の子育て支援への理解を深め、他者（特に、こどもやこどもを育てる保育者たち）に対して、より良いこども文化との出会いを手助けできる、優れた仲介者（こども文化の専門家）となるための訓練の場となることを目標とする。例えば、ブックスタートやこどもと本をとりまく市民運動、推薦図書や課題図書の考察のほか、作家研究、キーワード研究など、受講生とテーマを自由に設定するところからはじめ、多角的な取り組みを行う。その取り組みは、卒業論文・研究・制作の形で、受講者が各自のテーマを設定し、課題を探究し、まとめていく。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						ディプロマ・ポリシー		
						①	②	③
1 卒業論文・研究・制作を完成させる。							○	
2 卒業論文・研究・制作を通して、こども文化(こどもの本の文化・こどもの文化全般)への理解を深め、各自のこども文化観を確立させる。							○	
3 個別指導を通して、こども文化学科における学びの最終的な仕上げを行う。							○	
4 チームワークの基礎を修得し、リーダーシップがとれる							○	
5 学外施設等でのアクティブラーニングを通して、こども文化の領域の課題を発見し、それを解決していく能力を身につける。							○	
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
1	オリエンテーション——アクティブラーニングと研究に関する説明	大竹	予習(2時間): 先行研究の調査 復習(2時間): 資料のリーディング *大阪国際児童文学振興財団の公開デジタルコンテンツ「ドキドキ絵本づくり」を活用する https://www.justice.co.jp/dokidoki/					
2	卒業論文・研究・制作ガイダンス	大竹	予習(2時間): 先行研究の整理、文献リスト作成 復習(2時間): 資料、課題図書のリーディング					
3	卒業論文・研究・制作個別指導(導入・1)現状の把握	大竹	予習(2時間): 先行研究の整理、文献リスト作成 復習(2時間): 資料、課題図書のリーディング					
4	卒業論文・研究・制作個別指導(導入・2)軌道修正	大竹	予習(2時間): 研究課題シートの作成 復習(2時間): 研究目的・研究方法の整理					
5	卒業論文・研究・制作個別指導(初期・1)執筆の具体的な指導	大竹	予習(2時間): 研究目的・研究方法シートの作成 復習(2時間): 資料、課題図書のリーディング					
6	卒業論文・研究・制作個別指導(初期・2)修正原稿の指導	大竹	予習(2時間): 「表紙・目次・はじめに」の作成 復習(2時間): 資料、課題図書のリーディング					
7	卒業論文・研究・制作個別指導(初期・3)論点の整理	大竹	予習(2時間): 段落構成メモの作成 復習(2時間): 資料、課題図書のリーディング					
8	卒業論文・研究・制作個別指導(中期・1)論文構成立案	大竹	予習(2時間): 参考文献リストの作成 復習(2時間): 資料、課題図書のリーディング					
9	卒業論文・研究・制作個別指導(中期・2)第一論点の執筆	大竹	予習(2時間): 「本論1」の執筆 復習(2時間): 「本論1」の修正					
10	中間発表会に向けたガイダンス	大竹	予習(2時間): 資料収集 復習(2時間): 資料、課題図書のリーディング					
11	中間発表会に向けた指導(1)——レジュメの作成	大竹	予習(2時間): 資料収集 復習(2時間): 資料、課題図書のリーディング					
12	中間発表会に向けた指導(2)——レジュメの修正	大竹	予習(2時間): レジュメの作成 復習(2時間): レジュメの修正					
13	中間発表会に向けた指導(3)——パワーポイントの作成	大竹	予習(2時間): パワーポイントの材料の整理 復習(2時間): レジュメの清書、提出					
14	中間発表会に向けた指導(4)——パワーポイントの修正、プレゼン練習	大竹	予習(2時間): パワーポイント作成 復習(2時間): パワーポイントの修正					
15	中間発表	大竹	予習(2時間): 中間発表準備 復習(2時間): 中間発表の自己評価、次の目標設定					
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫					
①:PBL(課題解決型学習)		○	特になし					
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)		○						
③:ディスカッション・ディベート		○						
④:グループワーク		○						
⑤:プレゼンテーション		○						
⑥:実習・フィールドワーク		○						

【課題のフィードバック】 ・予習で準備した資料、復習で作成した報告書・レポートは次回の授業で持参すること。 ・授業では、それらの「資料」「シート」「レポート」などの準備物提出物を活用し、プレゼンとフィードバックを行う。
【成績の評価方法】 授業参加度(課題への取り組み)30%、発表30%、提出物40% 【生成AI利活用（ 無 ）】 【 ルーブリック評価の活用（ 無 ）】
【履修申請上の条件】 特になし。
【教科書】 授業中に指定する。
【参考書】 『絵本のよろこび』松居直, NHK出版 『絵本はともだち』中村稯子, 福音館書店 『えほんのせかい こどものせかい』松岡享子, 日本エディタースクール出版部 『明日の平和をさがす本 戦争と平和を考える絵本からYAまで300』野上暁ほか, 岩崎書店
【オープンな教育リソース】 ＊大阪国際児童文学振興財団の公開デジタルコンテンツ「おはなし会データベース」を活用する:https://www.justice.co.jp/iiclo/ohanashi/ ＊千葉大学アカデミック・リンク・センター 『児童文学事典』 https://alc.chiba-u.jp/cl/index.html
【担当教員の実務経験】 特になし。
【オフィスアワー】 月曜:昼休み・4限、金曜:昼休み・4限
【教員連絡先】 kootake@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 ＊学外フィールドワークの都合などにより授業計画に変更が生じる場合がある。その場合は事前に告知する。 ＊学外授業が想定されているため、授業は固定の時間割の日時ではなく、他の曜日や時間帯に集中的に振り替えになることがある。 ＊学外授業のスケジュールは学外施設との調整が必要なため、直前に日程変更になる場合がある。 ＊学外授業時の交通費、入場料、材料費などは個人負担とする。 ＊本演習では、生成AIの使用を前提としたり、利活用を指示した課題は教員からは出さない。使用した場合は、利活用の方法が逸脱したもの でないか、教員に相談してほしい。 有効な活用方法についてディスカッションしたいと思う。

授業科目名	こども文化セミナーBa	担当教員名	田尻 真理子				
コード	22CHI304	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
			○				
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
○	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。						
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。						

【授業の概要】
論文とは「～について」記述するのではなく、立てた問いに対して提示した仮説を文献等を用いて検証する事である。Baの受講生はすでに、Aa ,Abにおいて「問い」を立てているはずであるが、場合によっては「問い」の立て方自体の検討も必要になる。本演習では発表・討論を通じて、「問い」の修正も含めて「検証」の確からしさを確認していく。以上の作業のために、受講生は不断に文献探索・収集・読解・整理・比較検討を求められる。これは授業外学習において継続的(つまり、発表の直前だけ取り組むのではなく)・自習的に取り組まなければならない。その成果を授業内で発表し、他受講生からの意見・批判・感想等をフィードバックして研究をより良いものとするのが本演習の大きな目的である。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 テーマに応じた資料探索・収集読解・整理・活用ができる。		○			
2 論理的な思考ができる。		○			
3 論文執筆の規則に則って論文を作成することが。		○			
4 集団の中で発表し、建設的な討論を行うことができる。		○			
5 社会人となった後も、円滑な問題解決能力と他者との従前なコミュニケーション能力を持つことができる。		○			

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	授業の進め方・評価方法・B6カード復習、生成AIの利用法について	田尻	(予習) シラバスをよく読んでくる。 B6カード、B6ファイルを用意してくる (30分)
2	3年次後期までに進めた研究内外用の発表と討論	田尻	3年次の研究成果を発表できるようまとめ、レジュメ、パワポを作成してくる (予習2時間)
3	資料収集・読解・解釈・整理	田尻	ciniiでテーマのキーワードにより資料を探索し、ダウンロードできるものは印刷する (予習1時間)
4	発表・質疑応答 (発表者1)	田尻	発表者は、レジュメ、パワーポイントを準備してくる、B6カード作成 (予習2時間)
5	発表・質疑応答 (発表者2)	田尻	発表者は、レジュメ、パワーポイントを準備してくる、B6カード作成 (予習2時間)
6	発表・質疑応答 (発表者3)	田尻	発表者は、レジュメ、パワーポイントを準備してくる、B6カード作成 (予習2時間)
7	発表・質疑応答 (発表者4)	田尻	発表者は、レジュメ、パワーポイントを準備してくる、B6カード作成 (予習2時間)
8	発表・質疑応答 (発表者5)	田尻	発表者は、レジュメ、パワーポイントを準備してくる、B6カード作成□(予習2時間) □
9	発表・質疑応答 (発表者1)	田尻	発表者は、レジュメ、パワーポイントを準備してくる、B6カード作成 (予習2時間)
10	発表・質疑応答 (発表者2)	田尻	発表者は、レジュメ、パワーポイントを準備してくる、B6カード作成 (予習2時間)
11	発表・質疑応答 (発表者3)	田尻	発表者は、レジュメ、パワーポイントを準備してくる、B6カード作成 (予習2時間)
12	発表・質疑応答 (発表者4)	田尻	発表者は、レジュメ、パワーポイントを準備してくる、B6カード作成 (予習2時間)
13	中間発表準備	田尻	中間発表原稿、レジュメ、パワポウィ作れるよう資料を整えてくる、B6カード作成 (予習 1 時間)
14	中間発表予行	田尻	中間発表原稿、レジュメ、パワーポイントを準備してくる、B6カード作成 (予習2時間)
15	発表・質疑応答 (発表者1 5)	田尻□	発表者は、レジュメ、パワーポイントを準備してくる、B6カード作成 (予習2時間)

【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL (課題解決型学習)			
②:反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			
③:ディスカッション・ディベート		○	
④:グループワーク			
⑤:プレゼンテーション		○	
⑥:実習・フィールドワーク			

【課題のフィードバック】

【成績の評価方法】 取り組みの積極性:50% レポート:50% 合計:100% 【生成AI利活用（ 有 ）】 【 ルーブリック評価の活用（ 無 ）】
【履修申請上の条件】 特になし
【教科書】 特になし
【参考書】 特になし
【オープンな教育リソース】 分野に応じて都度紹介する
【担当教員の実務経験】 なし
【オフィスアワー】 水曜 16:20～17:50
【教員連絡先】 mtajiri@gt.junshin.ac.jp
【備考】 複写文献を容易に入手するため、国立国会図書館のアカウントをまだ作成していない学生は、作成しておくこと。 資料探索・取集、B 6カード作成はは常に行うこと。

授業科目名	こども文化セミナーBa	担当教員名	田中 路				
コード	22CHI304	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
			○				
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
○	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。						
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。						

【授業の概要】
本セミナーは主にこどもと音楽に関わるテーマについて、文献研究や楽曲分析・鑑賞などを通して学問的に理解を深める。セミナー全体で研究に関する基礎的な事項(先行研究の収集方法、データ等の分析方法、プレゼンテーションの方法、論文のまとめ方等)を学びながら、各自が興味関心のある研究テーマを設定し考察する。音楽の指導法研究、こどもの歌の作品研究、音楽教育メソッド研究など、こどもと音楽に関わる様々な面から研究にアプローチする。文献や論文の講読の他、楽曲の演奏・鑑賞を通して、ディスカッションを行う場合もある。卒業論文・研究・制作に向け、途中経過を中間発表会で発表した後、ゼミで反省を行い、後期までの各自の課題を明確にする。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					ディプロマ・ポリシー				
					①	②	③	④	⑤
1 卒業論文・研究を完成させることができる					○				
2 4年間を通した学びの集大成を、論文執筆、ディスカッション、プレゼンテーションによってまとめることができる					○				

【授業計画】				
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)	
1	オリエンテーション:授業の概要、授業の進め方などについての説明 論文執筆にあたっての基本事項の確認	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(1時間)	
2	卒業論文・研究に関する個人指導(1):研究動機の確認	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(1時間)	
3	卒業論文・研究に関する個人指導(2) :章構成の確認	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(1時間)	
4	卒業論文・研究に関する個人指導(3):本文の執筆(第1章前半)	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(1時間)	
5	卒業論文・研究に関する個人指導(4):本文の執筆(第1章後半)	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(1時間)	
6	卒業論文・研究に関する個人指導(5) :本文の執筆(第1章の内容の確認)	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(1時間)	
7	卒業論文・研究に関する個人指導(6) :本文の執筆(第2章前半)	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(1時間)	
8	卒業論文・研究に関する個人指導(7) :本文の執筆(第2章後半)	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(1時間)	
9	卒業論文・研究に関する個人指導(8) :本文の執筆(第2章の内容の確認)	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(1時間)	
10	中間発表会に向けたレジュメ作成(1):後期の課題の設定	田中	予習・復習:中間発表会用のレジュメを作成する(1時間)	
11	中間発表会に向けたレジュメ作成(2):レジュメの完成、確認	田中	予習・復習:中間発表会用のレジュメを作成する(1時間)	
12	中間発表会に向けたスライド作成(1):パワーポイントを用いたスライドの作成	田中	予習:スライド(パワーポイント)を作成する(30 分) 復習:添削されたスライド(パワーポイント)を修正する(30 分)	
13	中間発表会に向けたスライド作成(2):スライドの完成、確認	田中	予習:スライド(パワーポイント)を作成する(30 分) 復習:添削されたスライド(パワーポイント)を修正する(30 分)	
14	中間発表会リハーサル	田中	予習・復習:実際の発表の練習を行う(1時間)	
15	前期のまとめ	田中	予習:前期の研究の進捗をまとめ、後期の見通しを立てる(1時間)	

【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫	
①:PBL（課題解決型学習）				
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）				
③:ディスカッション・ディベート		○		
④:グループワーク				
⑤:プレゼンテーション		○		
⑥:実習・フィールドワーク				

【課題のフィードバック】
各回の課題については次回セミナー時に教員がチェックを行う。

【成績の評価方法】 授業参加度(課題への取り組み)50%、発表 50% 合計:100%	
【生成AI利活用（ 無 ）】	
【 ルーブリック評価の活用（ 無 ）】	

【履修申請上の条件】
音楽とこどもの関わりに高い関心があること。研究の一環としてセミナー内で演奏(器楽や歌唱)をする場合があるので、楽譜を読むことや人前で演奏することに抵抗がないこと。
【教科書】
特になし
【参考書】
特になし
【オープンな教育リソース】
特になし
【担当教員の実務経験】
特になし
【オフィスアワー】
火曜 12時15分～50分
【教員連絡先】
m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp
【備考】
特になし

授業科目名	こども文化セミナーBb	担当教員名	井上 救				
コード	22CHI305	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
			○				
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
○	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。						
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。						

【授業の概要】

本授業は、前期科目の「こども文化セミナーBa」に引き続き、コンピュータ・グラフィックスやデザインの要素を生かした造形作品（絵本、アニメーション、玩具や遊具、楽器など）制作について、アイディアや技法、知識について実践を通じて深く学び、卒業研究、卒業制作に向けて完成度を高めるため着実な準備を進めて行く。受講生の興味、関心を基に各自でテーマを設定し、情報収集や検証を積み重ね、こどもに対し制作作品がどの様に係わって行くのかを調査、研究し、4年間の学びの集大成となる様、自ら研鑽し、質の高い作品を目指す。基本的に、授業時間は卒業制作および制作ノートの作業を進める時間として充てることになるので、情報の共有や意見交換などの場として有効に活用し進めること。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③		
1 こどもに関わるデザインに対する知識を得ることができる。		○			
2 デザイン要素をいかすために必要なスキル(情報収集力、問題解決力、美的感性など)を体得することができる。		○			
3 一つひとつの積み重ねから形を作り上げる達成感を得ることで、感動を伝えることの大切さを実践できる。		○			

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	夏季休業中の進行チェック 作品制作	井上	予習(20分) 自主制作 素材、方法の検証 復習(25分) 作業進行の記録をまとめること
2	作品制作	井上	予習(20分) 自主制作 素材、方法の検証 復習(25分) 作業進行の記録をまとめること
3	作品制作	井上	予習(20分) 自主制作 素材、方法の検証 復習(25分) 作業進行の記録をまとめること
4	作品制作	井上	予習(20分) 自主制作 素材、方法の検証 復習(25分) 作業進行の記録をまとめること
5	作品制作	井上	予習(20分) 自主制作 素材、方法の検証 復習(25分) 作業進行の記録をまとめること
6	作品制作	井上	予習(20分) 自主制作 素材、方法の検証 復習(25分) 作業進行の記録をまとめること
7	作品制作	井上	予習(20分) 自主制作 素材、方法の検証 復習(25分) 作業進行の記録をまとめること
8	作品制作	井上	予習(20分) 自主制作 素材、方法の検証 復習(25分) 作業進行の記録をまとめること
9	作品制作	井上	予習(20分) 自主制作 素材、方法の検証 復習(25分) 作業進行の記録をまとめること
10	作品制作	井上	予習(20分) 自主制作 素材、方法の検証 復習(25分) 作業進行の記録をまとめること
11	制作(完成に向けて進行状況の見直し)	井上	予習(20分) 自主制作 素材、方法の検証 復習(25分) 作業進行の記録をまとめること
12	作品制作	井上	予習(20分) 自主制作 素材、方法の検証 復習(25分) 作業進行の記録をまとめること
13	作品制作	井上	予習(20分) 自主制作 素材、方法の検証 復習(25分) 作業進行の記録をまとめること
14	作品制作	井上	予習(20分) 自主制作 素材、方法の検証 復習(25分) 作業進行の記録をまとめること
15	作品制作及び最終講評	井上	予習(20分) 夏季休業中の課題をまとめる 復習(25分) 作業進行の記録をまとめて提出

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）	○	特になし
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション	○	
⑥:実習・フィールドワーク	○	

【課題のフィードバック】 作業工程、制作方法など授業内で適宜フィードバックを行う
【成績の評価方法】 授業参加度:50％ 課題制作作品:50％ 合計:100％ 1. どの程度、積極的に授業時の活動に参加したかを「授業参加度」として評価する。 2. 課題制作作品は完成度、オリジナルの創意工夫がみられるか等、総合評価とする。 【生成AI利活用（ 無 ）】 【 ルーブリック評価の活用（ 無 ）】
【履修申請上の条件】 ・3年次科目の「こども文化セミナーAa」および「こども文化セミナーAb」を履修済みであることが望ましい。 ・PCを使用する場合、ソフトの数に制限があること、また、作業場が限られるので、受講者が多い場合は要注意。 ・加工用の素材は、こちらで用意するものと本人負担するものがあるので、指示をよく確認すること。 ・アイディア出しや作業確認のため、エスキース帳(線の入っていないノート)を用意すること。
【教科書】 特になし
【参考書】 必要に応じ、授業内で紹介
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 特になし
【オフィスアワー】 前期:月曜日12:10～13:00、後期:火曜日12:10～13:00
【教員連絡先】 sinoue@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 時間内で作業が終わらない場合は、自主的に時間を設けて制作をすることが望ましい。 制作活動は工作機械、塗料、接着剤など汚れる可能性のあるものも扱うので、そのつもりで取り組むこと。 危険を伴う道具や工具も取り扱う場合もあるので、指導に従うこと。

授業科目名	こども文化セミナーBb	担当教員名	大竹 聖美					
コード	19CHI305	区分 (必修・選択)	卒業必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生	
			○					
年次／期間	4年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習					
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】							
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。							
○	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。							
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。							
【授業の概要】								
●アクティブラーニング＜こども文化＞～地域・環境・多文化・共生の視点から～●＜その2・個人のテーマを追求する＞（後半戦） こども文化の領域における様々な課題を解決していくアクティブラーニングの講座である。 本講座は、こども文化や地域の子育て支援への理解を深め、他者（特に、こどもやこどもを育てる保育者たち）に対して、より良いこども文化との出会いを手助けできる、優れた仲介者（こども文化の専門家）となるための訓練の場となることを目標とする。例えば、ブックスタートやこどもと本をとりまく市民運動、推薦図書や課題図書の考察のほか、作家研究、キーワード研究など、受講生とテーマを自由に設定するところからはじめ、多角的な取り組みを行う。その取り組みは、卒業論文・研究・制作の形で、受講者が各自のテーマを設定し、課題を探究し、まとめていく。								
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						ディプロマ・ポリシー		
						①	②	③
1 卒業論文・研究・制作を完成させる。							○	
2 卒業論文・研究・制作を通して、こども文化（こどもの本の文化・こどもの文化全般）への理解を深め、各自のこども文化観を確立させる。							○	
3 個別指導を通して、こども文化学科における学びの最終的な仕上げを行う。							○	
4 チームワークの基礎を修得し、リーダーシップがとれる							○	
5 学外施設等でのアクティブラーニングを通して、こども文化の領域の課題を発見し、それを解決していく能力を身につける。							○	
【授業計画】								
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)					
16	卒業論文・研究・制作個別指導(中期・3)執筆原稿の指導	大竹	予習(2時間)：「本論2」執筆 復習(2時間)：「本論2」修正					
17	卒業論文・研究・制作個別指導(中期・4)論文構成の修正	大竹	予習(2時間)：「本論3」の執筆 復習(2時間)：「本論3」の修正					
18	卒業論文・研究・制作個別指導(後期・1)第二論点の執筆	大竹	予習(2時間)：「本論4」の執筆 復習(2時間)：「本論4」の修正					
19	卒業論文・研究・制作個別指導(後期・2)第二論点の指導	大竹	予習(2時間)：「本論5」の執筆 復習(2時間)：「本論5」の修正					
20	卒業論文・研究・制作個別指導(後期・3)第二論点の修正と第三論点の執筆	大竹	予習(2時間)：「本論6」の執筆 復習(2時間)：「本論6」の修正					
21	卒業論文・研究・制作個別指導(後期・4)第三論点の指導	大竹	予習(2時間)：「本論7」の執筆 復習(2時間)：「本論7」の修正					
22	卒業論文・研究・制作個別指導(仕上げ・1)結論の執筆	大竹	予習(2時間)：「結論」の執筆 復習(2時間)：「結論」の修正					
23	卒業論文・研究・制作個別指導(仕上げ・2)全体構成の指導	大竹	予習(2時間)：「全体」の執筆 復習(2時間)：「全体」の修正					
24	卒業論文・研究・制作個別指導(仕上げ・3)全体の修正指導	大竹	予習(2時間)：「完成」に向けた修正 復習(2時間)：「完成」に向けた再修正					
25	卒業論文・研究・制作の提出、展示会、発表会に向けたガイダンス	大竹	予習(2時間)：レジュメの執筆 復習(2時間)：レジュメの修正					
26	卒業論文・研究・制作個別指導(完成)	大竹	予習(2時間)：レジュメの清書 復習(2時間)：レジュメの完成					
27	卒業論文・研究・制作提出指導(提出) ーレジュメの完成	大竹	予習(2時間)：提出準備 復習(2時間)：提出物と取り組みに対する自己評価を行う					
28	卒業論文・研究・制作発表会に向けた指導(1) ーパワーポイントの作成	大竹	予習(2時間)：パワーポイントの作成 復習(2時間)：パワーポイントの完成					
29	卒業論文・研究・制作発表会に向けた指導(2) ーパワーポイント修正、プレゼン練習	大竹	予習(2時間)：パワーポイント修正 復習(2時間)：プレゼン準備					
30	卒業論文・研究・制作発表	大竹	予習(2時間)：プレゼン練習 復習(2時間)：本セミナーでの学修全体に対する自己評価を行う					
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫				
①:PBL(課題解決型学習)			○					
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○					
③:ディスカッション・ディベート			○					
④:グループワーク			○					
⑤:プレゼンテーション			○					
⑥:実習・フィールドワーク			○					

【課題のフィードバック】 ・予習で準備した資料、復習で作成した報告書・レポートは次回の授業で持参すること。 ・授業では、それらの「資料」「シート」「レポート」などの準備物提出物を活用し、プレゼンとフィードバックを行う。
【成績の評価方法】 授業参加度(課題への取り組み)30%、発表30%、提出物40% 【生成AI利活用（ 無 ）】 【 ルーブリック評価の活用（ 無 ）】
【履修申請上の条件】 特になし。
【教科書】 授業中に指定する。
【参考書】 『絵本のよこび』松居直, NHK出版 『絵本はともだち』中村稯子, 福音館書店 『えほんのせかい こどものせかい』松岡享子, 日本エディタースクール出版部 『明日の平和をさがす本 戦争と平和を考える絵本からYAまで300』野上暁ほか, 岩崎書店
【オープンな教育リソース】 ＊大阪国際児童文学振興財団の公開デジタルコンテンツ「おはなし会データベース」を活用する:https://www.justice.co.jp/iiclo/ohanashi/ ＊千葉大学アカデミック・リンク・センター 『児童文学事典』 https://alc.chiba-u.jp/cl/index.html
【担当教員の実務経験】
【オフィスアワー】 月曜:昼休み・4限、金曜:昼休み・4限
【教員連絡先】 kootake@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 ＊学外フィールドワークの都合などにより授業計画に変更が生じる場合がある。その場合は事前に告知する。 ＊学外授業が想定されているため、授業は固定の時間割の日時ではなく、他の曜日や時間帯に集中的に振り替えになることがある。 ＊学外授業のスケジュールは学外施設との調整が必要なため、直前に日程変更になる場合がある。 ＊学外授業時の交通費、入場料、材料費などは個人負担とする。 ＊本演習では、生成AIの使用を前提としたり、利活用を指示した課題は教員からは出さない。使用した場合は、利活用の方法が逸脱したものでないか、教員に相談してほしい。 有効な活用方法についてディスカッションしたいと思う。

現代文化学部

2025(令和7)年度

授業科目名	こども文化セミナーBb	担当教員名	田尻 真理子						
コード	22CHI305	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生		
			○						
年次／期間	4年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習						
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】								
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。								
○	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。								
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。								
【授業の概要】									
論文とは「～について」記述するのではなく、立てた問いに対して提示した仮説を文献等を用いて検証する事である。Baの受講生はすでに、Aa ,Abにおいて「問い」を立てているはずであるが、場合によっては「問い」の立て方自体の検討も必要になる。本演習では発表・討論を通じて、「問い」の修正も含めて「検証」の確からしさを確認していく。以上の作業のために、受講生は不断に文献探索・収集・読解・整理・比較検討を求められる。これは授業外学習において継続的(つまり、発表の直前だけ取り組むのではなく)・自習的に取り組まなければならない。その成果を授業内で発表し、他受講生からの意見・批判・感想等をフィードバックして研究をより良いものとするのが本演習の大きな目的である。さらに今学期は余裕をもって論文を完成させることが期待される。									
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					ディプロマ・ポリシー				
					①	②	③	④	⑤
1 テーマに応じた資料探索・収集読解・整理・活用ができる。						○			
2 論理的な思考ができる。						○			
3 論文執筆の規則に則って論文を作成することが。						○			
4 集団の中で発表し、建設的な討論を行うことができる。						○			
5 社会人となった後も、円滑な問題解決能力と他者との従前なコミュニケーション能力を持つことができる。						○			
【授業計画】									
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)						
1	前期及び夏季休業中に進めた部分の発表	田尻	発表できるように準備してくる、B6カード作成（予習1時間）						
2	「論文形式」で書くとは	田尻	第一回で配布した資料を熟読し、内容を理解する、B6カード作成（予習1時間）						
3	発表・質疑応答（発表者1）	田尻	発表者は、レジュメ、パワーポイントを準備してくる、B6カード作成（予習2時間）						
4	発表・質疑応答（発表者2）	田尻	発表者は、レジュメ、パワーポイントを準備してくる、B6カード作成（予習2時間）						
5	発表・質疑応答（発表者3）	田尻	発表者は、レジュメ、パワーポイントを準備してくる、B6カード作成（予習2時間）						
6	発表・質疑応答（発表者4）	田尻	発表者は、レジュメ、パワーポイントを準備してくる、B6カード作成（予習2時間）						
7	発表・質疑応答（発表者5）	田尻	発表者は、レジュメ、パワーポイントを準備してくる、B6カード作成（予習2時間）						
8	発表・質疑応答（発表者5）	田尻	発表者は、レジュメ、パワーポイントを準備してくる、B6カード作成（予習2時間）□						
9	発表・質疑応答（発表者1）	田尻	発表者は、レジュメ、パワーポイントを準備してくる、B6カード作成（予習2時間）						
10	論文執筆	田尻	B6カード（キーワードカード）整理（予習2時間）						
11	論文執筆	田尻	B6カード（キーワードカード）整理（予習1時間）						
12	論文執筆、参考文献表作成	田尻	B6カード（書誌カード）整理（予習1時間）						
13	本発表準備	田尻	本発表原稿、レジュメ、パワポイントを作れるよう資料を整えてくる（予習1時間）						
14	本発表準備	田尻	中間発表原稿、レジュメ、パワーポイントを準備してくる（予習2時間）						
15	本発表予行	田尻□	発表原稿、レジュメ、パワーポイントを準備してくる（予習2時間）						
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫						
①:PBL（課題解決型学習）									
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）									
③:ディスカッション・ディベート		○							
④:グループワーク									
⑤:プレゼンテーション		○							
⑥:実習・フィールドワーク									
【課題のフィードバック】									
授業内で口頭で行うとともに、提出されたレポートに添削する									
【成績の評価方法】									
取り組みの積極性:50% レポート:50% 合計:100%									
【生成AI利活用（ 有 ）】									
【ルーブリック評価の活用（ 無 ）】									
【履修申請上の条件】									
特になし									
【教科書】									
特になし									
【参考書】									
特になし									

【オープンな教育リソース】
分野に応じて都度紹介する
【担当教員の実務経験】
なし
【オフィスアワー】
水曜:16:20～17:50
【教員連絡先】
mtajiri@gtjunshin.ac.jp
【備考】
複写文献を容易に入手するため、国立国会図書館のアカウントをまだ作成していない学生は、作成しておくこと。 資料探索・取集、B 6カード作成はは常に行うこと

授業科目名	こども文化セミナーBb	担当教員名	田中 路						
コード	22CHI305	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生		
			○						
年次／期間	4年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習						
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】								
○	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。								
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。								
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。								
【授業の概要】									
本セミナーは、こどもと音楽に関わるテーマについて、文献研究や楽曲分析・鑑賞などを通して学問的に理解を深める。セミナー全体で研究に関する基礎的な事項(先行研究の収集方法、データ等の分析方法、プレゼンテーションの方法、論文のまとめ方等)を学びながら、各自が興味関心のある研究テーマを設定し考察する。またその集大成を卒業論文・研究・制作という形にまとめることができるよう、探究を進めていく。音楽の指導法研究、こどもの歌の作品研究、音楽教育メソッド研究など、こどもと音楽に関わる様々な面から研究にアプローチする。文献や論文の講読の他、楽曲の演奏・鑑賞を通して、ディスカッションを行う場合もある。卒業論文・研究・制作の完成に向け、個人指導を中心としながらも、ゼミでの意見交換を通し、より高い完成度を目指す。									
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					ディプロマ・ポリシー				
					①	②	③	④	⑤
1 卒業論文・研究を完成させることができる					○				
2 4年間を通した学びの集大成を、論文執筆、ディスカッション、プレゼンテーションによってまとめることができる					○				
【授業計画】									
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)						
1	オリエンテーション:授業の概要、授業の進め方などについての説明 論文執筆にあたっての基本事項の確認	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(1時間)						
2	卒業論文・研究に関する個人指導(1):章構成の確認	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(1時間)						
3	卒業論文・研究に関する個人指導(2):本文の執筆(第3章前半)	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(1時間)						
4	卒業論文・研究に関する個人指導(3):本文の執筆(第3章後半)	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(1時間)						
5	卒業論文・研究に関する個人指導(4):本文の執筆(第3章の内容の確認)	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(1時間)						
6	卒業論文・研究に関する個人指導(5):本文の執筆(脚注の確認)	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(1時間)						
7	卒業論文・研究に関する個人指導(6):全体の内容の確認	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(1時間)						
8	卒業論文・研究に関する個人指導(7):結論の執筆	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(1時間)						
9	卒業論文・研究に関する個人指導(8):序論、目次等の執筆	田中	予習・復習:論文・研究の執筆およびその他の準備を進める(1時間)						
10	卒業論文・研究発表会に向けたレジュメ作成(1):結論の整理	田中	予習・復習:中間発表会用のレジュメを作成する(1時間)						
11	卒業論文・研究発表会に向けたレジュメ作成(2):レジュメの完成、確認	田中	予習・復習:中間発表会用のレジュメを作成する(1時間)						
12	卒業論文・研究発表会に向けたスライド作成(1):パワーポイントを用いたスライドの作成	田中	予習:スライド(パワーポイント)を作成する(30 分) 復習:添削されたスライド(パワーポイント)を修正する(30 分)						
13	卒業論文・研究発表会に向けたスライド作成(2):スライドの完成、確認	田中	予習:スライド(パワーポイント)を作成する(30 分) 復習:添削されたスライド(パワーポイント)を修正する(30 分)						
14	卒業論文・研究発表会リハーサル	田中	予習・復習:実際の発表の練習を行う(1時間)						
15	前期のまとめ	田中	予習:前期の研究の進捗をまとめ、後期の見通しを立てる(1時間)						
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫						
①:PBL(課題解決型学習)									
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)									
③:ディスカッション・ディベート		○							
④:グループワーク									
⑤:プレゼンテーション		○							
⑥:実習・フィールドワーク									
【課題のフィードバック】									
各回の課題については次回セミナー時に教員がチェックを行う。									
【成績の評価方法】									
授業参加度(課題への取り組み)50%、発表 50% 合計:100%									
【生成AI利活用(無)】									
【ルーブリック評価の活用(無)】									
【履修申請上の条件】									
音楽とこどもの関わりに高い関心があること。研究の一環としてセミナー内で演奏(器楽や歌唱)をする場合があるので、楽譜を読むことや人前で演奏することに抵抗がないこと。									
【教科書】									
特になし									
【参考書】									
特になし									
【オープンな教育リソース】									
特になし									

【担当教員の実務経験】
特になし
【オフィスアワー】
火曜 12時15分～50分
【教員連絡先】
m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp
【備考】
特になし

【オフィスアワー】

科目責任者(大竹聖美):月曜:昼休み・4限、金曜:昼休み・4限

【教員連絡先】

kootake@g.t-junshin.ac.jp

【備考】

特になし。

授業科目名	こども文化特講C	担当教員名	佐野 通夫				
コード	22CHI309	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○			
年次／期間	1～4年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力和豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
○	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。						
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。						

【授業の概要】

現在、保育・小学校の現場では、外国籍の子どもや外国につながる子どもたちが増加しており、保育・教育の多文化・国際化に対応できる保育者・教師が求められている。そこで、諸外国や日本の現状をふまえながら、外国につながる子どもや保護者への支援の実際を学び、多文化保育・教育のあり方について学修する。さらに、自ら「問い」をもち、調べ、考えられ、各分野についての新しい知見が身に付けられるように学びを深める。具体的には、多文化保育においては、言葉、食事の課題や保護者とのコミュニケーションの課題がある。小学校教育においては授業理解、学力に関する課題がある。そのほか、行政の取り組みや地域ごとの特色も知るべきである。そのような具体的な視点をもちながら、日本の現状、世界の現状を広く見つめ、自分が暮らす街の今後を考えてもらいたい。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 少子高齢化が進むとともに、多言語・多文化化しつつある日本社会で、自ら課題を発見し、解決できる能力を備えることができる。		○			
2 学生生活や日常生活の話題を取り上げながら、文化によって異なる多様な価値観について、母語と外国語の視点からコミュニケーションを通じて相互理解を深め、異文化間コミュニケーションや他者理解の基礎を培うことができる。		○			
3 言語の違いを超えた相互理解のために、どのような工夫ができるのかを探索することができるようになる。		○			

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	多文化保育・教育とは何か ・多文化主義と同化主義について考えてみる。	佐野通夫	予習(40分):シラバスを一読し、自分なりのイメージや理解をもって参加すること。 復習(140分):課題について考えをまとめる。
2	在日外国人の動向と福祉ニーズ 在日外国人の現状や外国人支援の課題について学ぶ。	佐野通夫	予習(90分):教科書第1話・第2話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):在日外国人の増加が日本社会にもたらす影響についてまとめる。
3	外国につながる子どもの保育・教育と保護者への支援(保育) ① 言葉に関する事例 ② 食事に関する事例 ③ 保護者への支援の事例	佐野通夫	予習(90分):教科書第3話・第4話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):日本における外国籍の子どもと日本国籍の子どもの就学扱いの相違点についてまとめる。
4	外国につながる子どもの保育・教育と保護者への支援(小学校) ① 入学に関する事例 ② 授業・学力に関する事例 ③ 保護者への支援の事例	佐野通夫	予習(90分):教科書第5話・第6話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):母語とは何か、母語の重要性についてまとめる。
5	多文化保育・教育における保育者・教師の専門性と役割	佐野通夫	予習(90分):教科書第7話・第8話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):日本人らしさとはどのようなものか、まとめる。
6	行政の多文化共生への取り組み ー多文化保育・教育を踏まえてー	佐野通夫	予習(90分):教科書第9話・第10話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。
7	地域の国際交流、外国人支援	佐野通夫	予習(90分):教科書第11話・第12話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。
8	地域の国際交流、外国人支援	佐野通夫	予習(90分):教科書第13話・第14話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。
9	今後の多文化保育・教育の課題と展望	佐野通夫	予習(90分):教科書第15話・第16話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。
10	日本の多文化社会の現状と課題	佐野通夫	予習(90分):教科書第17話・第18話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。
11	世界の多文化社会の現状と課題	佐野通夫	予習(90分):教科書第19話・第20話をよく読んで理解を深めておく。 不明な語句については関連する本で調べておくこと。 復習(90分):あなたの住んでいる地域の国際交流について調べてまとめる。
12	世界の子育て支援の現状(1): 韓国の事例	佐野通夫	予習(90分):多文化絵本を選び、ブックトークの準備をする。 復習(90分):提出物＜多文化絵本の窓＞を完成させる
13	世界の子育て支援の現状(2): ジンバブエの事例	佐野通夫	予習(90分):多文化絵本を選び、ブックトークの準備をする。 復習(90分):提出物＜多文化絵本の窓＞を完成させる

14	自分の住んでいる地域の国際交流、外国人支援について調べ、まとめる。	佐野通夫	予習(90分):グループごとに自分の地域の国際交流について調査をする。 復習(90分):地域の国際交流についてまとめる。	
15	日本の多文化社会の現状と課題を整理した上で、多文化共生に関わる具体的政策課題を解決する方法を、ディスカッションやグループワークなどを通じて探る。	佐野通夫	予習(90分):日本の多文化社会の現状と課題を整理しておく。 復習(90分):ディスカッションやグループワークなどを通じて探った内容についてまとめる。	
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)			○	・国立国際子ども図書館の電子ギャラリーの利用 「日本発☆子どもの本、海を渡る」 https://www.kodomo.go.jp/anv10th/index.html
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)				
③:ディスカッション・ディベート				
④:グループワーク			○	
⑤:プレゼンテーション			○	
⑥:実習・フィールドワーク				
【課題のフィードバック】				
授業時の意見交換等により、様々な考え方があることを、専門的知見や日常の出来事等を通してみていく。				
【成績の評価方法】				
課題:30% 小テスト:30% 定期試験:40% 合計:100%				
【生成AI利活用(無)】				
【ルーブリック評価の活用(無)】				
【履修申請上の条件】				
特になし				
【教科書】				
「外国につながる子どもたちの物語」編集委員会／編『クラスメイトは外国人 入門編 -はじめて学ぶ多文化共生-』明石書店2013				
【参考書】				
・『保育者のための外国人保護者支援の本』かもがわ出版 2020 ・『多文化絵本を楽しむ』ミネルヴァ書房 2014				
【オープンな教育リソース】				
「日本発☆子どもの本、海を渡る」 https://www.kodomo.go.jp/anv10th/index.html				
【担当教員の実務経験】				
特になし				
【オフィスアワー】				
・木曜 3限				
【教員連絡先】				
msano@t-iunshin.ac.jp				
【備考】				
特になし				

【履修申請上の条件】
12月に行われるクリスマスの演奏会（純心こどもの国のクリスマス、クリスマスチャリティオルガンコンサート、演奏奉仕など。詳細は第1回で説明）に必ず出演できること。グループワークが中心となるので、他の学生と互いに高め合いながら取り組むこと。授業時間外での準備が必要となる場合もあるので、協力し合って取り組むこと。メンバーが揃わないと練習に支障が出るため、欠席をしないこと。
【教科書】
特になし
【参考書】
特になし
【オープンな教育リソース】
特になし
【担当教員の実務経験】
特になし
【オフィスアワー】
火曜 12時15分～50分
【教員連絡先】
m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp
【備考】
特になし

【成績の評価方法】 授業内試験(音楽劇)60%、授業内発表(子どもの歌の分析について、第7回までに実施)20%、予習・復習及び授業に臨む姿勢20% 合計:100% 【生成AI利活用（無）】 【ルーブリック評価の活用（有）】
【履修申請上の条件】 授業時間外での準備が必要となる場合もある。
【教科書】 文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
【参考書】 特になし
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 特になし
【オフィスアワー】 火曜 12時15分～50分
【教員連絡先】 m_tanaka@g.t-iunshin.ac.jp
【備考】 特になし

【成績の評価方法】 定期試験(ピアノ実技試験)80%、予習・復習及び授業に臨む姿勢20% 合計:100% 第15回の授業終了までに課題曲が修了していない場合には失格となる。 【生成AI利活用（ 無 ）】 【 ルーブリック評価の活用（ 有 ）】
【履修申請上の条件】 ピアノ表現法Ⅳの単位が取得済であること。
【教科書】 平島美保、木村鈴代、小杉裕子編『こどものうた<簡易伴奏曲つき>』圭文社. 文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
【参考書】 小林真実編『保育実用書シリーズ こどものうた200』チャイルド本社.
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 特になし
【オフィスアワー】 火曜 12時15分～50分
【教員連絡先】 m_tanaka@g.t-iunshin.ac.jp
【備考】 小テストの時期は全体の進度によって前後する場合がある。

【成績の評価方法】 定期試験(ピアノ実技試験)80%、予習・復習及び授業に臨む姿勢20% 合計:100% 第15回の授業終了までに課題曲が修了していない場合には失格となる。 【生成AI利活用（ 無 ）】 【 ルーブリック評価の活用（ 有 ）】
【履修申請上の条件】 ピアノ表現法Ⅴの単位が取得済であること。
【教科書】 平島美保、木村鈴代、小杉裕子編『こどものうた<簡易伴奏曲つき>』圭文社. 文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
【参考書】 小林真実編『保育実用書シリーズ こどものうた200』チャイルド本社.
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 特になし
【オフィスアワー】 火曜 12時15分～50分
【教員連絡先】 m_tanaka@g.t-iunshin.ac.jp
【備考】 小テストの時期は全体の進度によって前後する場合がある。

授業科目名	ピアノ表現法Ⅶ	担当教員名	田中 路				
コード	22EDU304	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○			
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。						
○	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。						

【授業の概要】

幼児教育や保育の現場において、音楽を通して子どもと遊んだり、コミュニケーションをとったりする機会は多い。その際に教師や保育者に求められるのは、自分が演奏できるだけでなく、子どもの様子を見ながら演奏したり、音楽をリードしたりする能力である。この授業では、そういった実践的な力を養うことを目指し、ピアノの演奏、子どもの歌の歌唱、弾き歌いという三つの技能を磨いていく。特に弾き歌いについては、教育現場で実際に多く歌われる楽曲を中心に、できるだけ多くのレパートリーを習得する。本授業ではピアノ表現法Ⅵまでの学習内容をふまえ、自らのウイークポイントを克服するために、自分自身で練習方法を工夫できるようになることを目指す。個人及びグループレッスンを通して、弾き歌いの技術的な修得だけでなく、人前で演奏する際の様々な表現方法の探求も目指していく。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 ピアノ表現法Ⅰ～Ⅵの学習内容を活かし、表情豊かな演奏ができるようになる		○			
2 声と伴奏のバランスに注意をはらいながら、子どもの歌の弾き歌いができるようになる ※自ら課題曲を選定する		○			

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション 子どもの歌の弾き歌い\⑴:課題曲の選定	田中	予習:6曲の課題曲を選定しておく(30分) 復習:課題曲aの譜読みを行う(30分)
2	子どもの歌の弾き歌い\⑵:課題曲a(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲aのピアノ演奏の練習を行う(1時間)
3	子どもの歌の弾き歌い\⑶:課題曲a(弾き歌い)	田中	予習:課題曲aの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲aの弾き歌いができるようにする(30分)
4	子どもの歌の弾き歌い\⑷:課題曲b(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲bのピアノ演奏の練習を行う(1時間)
5	子どもの歌の弾き歌い\⑸:課題曲b(弾き歌い)	田中	予習:課題曲bの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲bの弾き歌いができるようにする(30分)
6	子どもの歌の弾き歌い\⑹:課題曲c(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲cのピアノ演奏の練習を行う1時間)
7	子どもの歌の弾き歌い\⑺:課題曲c(弾き歌い)	田中	予習:課題曲cの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲cの弾き歌いができるようにする(30分)
8	子どもの歌の弾き歌い\⑻:課題曲d(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲dのピアノ演奏の練習を行う(1時間)
9	子どもの歌の弾き歌い\⑼:課題曲d(弾き歌い)	田中	予習:課題曲dの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲dの弾き歌いができるようにする(30分)
10	小テスト(他のクラスと合同)	田中	予習:小テストの準備を行う(30分) 復習:小テストの振り返りを行なう(30分)
11	子どもの歌の弾き歌い\⑽:課題曲e(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲eのピアノ演奏の練習を行う(1時間)
12	子どもの歌の弾き歌い\⑾:課題曲e(弾き歌い)	田中	予習:課題曲eの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲eの弾き歌いができるようにする(30分)
13	子どもの歌の弾き歌い\⑿:課題曲f(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲fのピアノ演奏の練習を行う1時間)
14	子どもの歌の弾き歌い\⓫:課題曲f(弾き歌い)	田中	予習:課題曲fの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲fの弾き歌いができるようにする(30分)
15	子どもの歌の弾き歌い\⓬:クラスごとの発表会	田中	予習:発表会の準備を行う(30分) 復習:発表会の反省を行い、定期試験に向けて練習する(30分)

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

各回の課題については次回授業時に教員がチェックを行う。
次回授業時までには課題曲を練習し、担当教員の指導を受けられるようにしておくこと。そのために毎日ピアノに向かい、練習を積んでおくこと。

【成績の評価方法】 定期試験(ピアノ実技試験)80%、予習・復習及び授業に臨む姿勢20% 合計:100% 第15回の授業終了までに課題曲が修了していない場合には失格となる。 【生成AI利活用（無）】 【ループリック評価の活用（有）】
【履修申請上の条件】 ピアノ表現法Ⅵの単位が取得済であること。
【教科書】 平島美保、木村鈴代、小杉裕子編『こどものうた<簡易伴奏曲つき>』圭文社. 文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
【参考書】 小林真実編『保育実用書シリーズ こどものうた200』チャイルド本社.
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 特になし
【オフィスアワー】 火曜 12時15分～50分
【教員連絡先】 m_tanaka@g.t-iunshin.ac.jp
【備考】 小テストの時期は全体の進度によって前後する場合がある。

授業科目名	ピアノ表現法Ⅷ	担当教員名	田中 路				
コード	22EDU305	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○			
年次／期間	4年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。						
○	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。						

【授業の概要】

幼児教育や保育の現場において、音楽を通して子どもと遊んだり、コミュニケーションをとったりする機会は多い。その際に教師や保育者に求められるのは、自分が演奏できるだけでなく、子どもの様子を見ながら演奏したり、音楽をリードしたりする能力である。この授業では、そういった実践的な力を養うことを目指し、ピアノの演奏、子どもの歌の歌唱、弾き歌いという三つの技能を磨いていく。特に弾き歌いについては、教育現場で実際に多く歌われる楽曲を中心に、できるだけ多くのレパートリーを習得する。本授業ではピアノ表現法Ⅶまでの学習内容をふまえ、子ども達が歌いやすい演奏法や伴奏法を探究し、表情豊かに弾き歌いできるようになることを目指す。個人及びグループレッスンを通して、弾き歌いの技術的な修得だけでなく、人前で演奏する際の様々な表現方法の探求も目指していく。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 ピアノ表現法Ⅰ～Ⅶの学習内容を活かし、表情豊かな演奏ができるようになる		○			
2 声と伴奏のバランスに注意をはらいながら、子どもの歌の弾き歌いができるようになる ※自ら課題曲を選定し、できるだけ多くの子どもの歌を弾き歌いできるようにする		○			
3 ※暗譜で演奏できるようにすること					

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション 子どもの歌の弾き歌い(1):課題曲の選定	田中	予習:6曲の課題曲を選定しておく(30分) 復習:課題曲aの譜読みを行う(30分)
2	子どもの歌の弾き歌い(2):課題曲a(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲aのピアノ演奏の練習を行う(1時間)
3	子どもの歌の弾き歌い(3):課題曲a(弾き歌い)	田中	予習:課題曲aの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲aの弾き歌いができるようにする(30分)
4	子どもの歌の弾き歌い(4):課題曲b(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲bのピアノ演奏の練習を行う(1時間)
5	子どもの歌の弾き歌い(5):課題曲b(弾き歌い)	田中	予習:課題曲bの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲bの弾き歌いができるようにする(30分)
6	子どもの歌の弾き歌い(6):課題曲c(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲cのピアノ演奏の練習を行う1時間)
7	子どもの歌の弾き歌い(7):課題曲c(弾き歌い)	田中	予習:課題曲cの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲cの弾き歌いができるようにする(30分)
8	子どもの歌の弾き歌い(8):課題曲d(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲dのピアノ演奏の練習を行う(1時間)
9	子どもの歌の弾き歌い(9):課題曲d(弾き歌い)	田中	予習:課題曲dの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲dの弾き歌いができるようにする(30分)
10	小テスト(他のクラスと合同)	田中	予習:小テストの準備を行う(30分) 復習:小テストの振り返りを行なう(30分)
11	子どもの歌の弾き歌い(10):課題曲e(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲eのピアノ演奏の練習を行う(1時間)
12	子どもの歌歌の弾き歌い(11):課題曲e(弾き歌い)	田中	予習:課題曲eの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲eの弾き歌いができるようにする(30分)
13	子どもの歌の弾き歌い(12):課題曲f(ピアノ演奏)	田中	予習・復習:課題曲fのピアノ演奏の練習を行う1時間)
14	子どもの歌の弾き歌い(13):課題曲f(弾き歌い)	田中	予習:課題曲fの歌唱を練習する(30分) 復習:課題曲fの弾き歌いができるようにする(30分)
15	子どもの歌の弾き歌い(14):クラスごとの発表会	田中	予習:発表会の準備を行う(30分) 復習:発表会の反省を行い、定期試験に向けて練習する(30分)

【アクティブラーニング】	チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
③:ディスカッション・ディベート		
④:グループワーク		
⑤:プレゼンテーション		
⑥:実習・フィールドワーク		

【課題のフィードバック】

各回の課題については次回授業時に教員がチェックを行う。
次回授業時までには課題曲を練習し、担当教員の指導を受けられるようにしておくこと。そのために毎日ピアノに向かい、練習を積んでおくこと。

【成績の評価方法】 定期試験(ピアノ実技試験)80%、予習・復習及び授業に臨む姿勢20% 合計:100% 第15回の授業終了までに課題曲が修了していない場合には失格となる。 【生成AI利活用（無）】 【ルーブリック評価の活用（有）】
【履修申請上の条件】 ピアノ表現法Ⅶの単位が取得済であること。
【教科書】 平島美保、木村鈴代、小杉裕子編『こどものうた<簡易伴奏曲つき>』圭文社. 文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
【参考書】 小林真実編『保育実用書シリーズ こどものうた200』チャイルド本社.
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 特になし
【オフィスアワー】 火曜 12時15分～50分
【教員連絡先】 m_tanaka@g.t-iunshin.ac.jp
【備考】 小テストの時期は全体の進度によって前後する場合がある。

現代文化学部			2025(令和7)年度				
授業科目名	文化人類学	担当教員名	金子 毅				
コード	22HUM108	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○			
年次／期間	1年次～4年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
◎	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。						
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。						
【授業の概要】 本講義は文化人類学の初学者に対しなされるものである。文化という言葉を聞くと何をイメージするだろうか。学生やサラリーマンに問えば、武士、忍者、パワースポットとしての神社、アニメの聖地巡礼などと答える者が多い。だが、自分たちが何気なく日頃行なっているこうしたそのものが「文化」であると理解する者は少ない。そこで本講義では誰もが暮らしの中で体験してきた各種のお話、およびその中で語られてきた地域の「祭り」や成人式などをはじめとする「通過儀礼」といった宗教行事などを中心に説明を試みることにしたい。また、文化の日常的実践(Practices)という点に着目して最後に「技術の身体化」という点についても触れることにしたい。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】						ディプロマ・ポリシー	
1 無理な理論の運用を目指すのではなく、何気ない日常的なシーンに着目出来るようにする。						①	②
2 1を通して、他者との相互理解の回路を開く上で不可欠となる「知」の存在に配慮することが出来るようになる。							○
3 2を通して今後の不透明な世界情勢を透視し、かつ生き抜く上でのリテラシー能力を獲得させる。							○
【授業計画】							
	授業計画		授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	プロローグ:文化はどこにあるか		予習(30分):プリント1(文化とは何か、文化の概念と定義) 復習(45分):プリント1(文化とは何か、文化の概念と定義) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。				
2	人類学の歴史		予習(30分):プリント2(ヨーロッパ、アメリカ、日本の人類学) 復習(45分):プリント2(ヨーロッパ、アメリカ、日本の人類学) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。				
3	文化の調べ方		予習(30分):プリント3(調査法) 復習(45分):プリント3(調査法) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。				
4	様々なお話 その1		予習(30分):プリント4(説話1:昔話・伝説・世間話) 復習(45分):プリント4(説話1:昔話・伝説・世間話) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。				
5	様々なお話 その2		予習(30分):プリント5(説話2:都市伝説) 復習(45分):プリント5(説話2:都市伝説) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。				
6	様々なお話 その3		予習(30分):プリント6(神話と儀礼) 復習(45分):プリント6(神話と儀礼) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。				
7	お話は語る その1		予習(30分):プリント7(幽霊と妖怪) 復習(45分):プリント7(幽霊と妖怪) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。				
8	お話は語る その2		予習(30分):プリント8(予兆と禁忌) 復習(45分):プリント8(予兆と禁忌) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。				
9	お話は語る その3		予習(30分):プリント9(占いと呪術) 復習(45分):プリント9(占いと呪術) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。				
10	お話は語る その4		予習(30分):プリント10(妖術と邪視) 復習(45分)::プリント10(妖術と邪視) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。				
11	お話は語る その5		予習(30分):プリント11(年中行事と祭り) 復習(45分):プリント11(年中行事と祭り) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。				
12	お話は語る その6		予習(30分):プリント12(日本の伝統行事・来訪神・憑き物) 復習(45分):プリント12(日本の伝統行事・来訪神・憑き物) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。				
13	お話は語る その7		予習(30分):プリント13(通過儀礼1:妊娠～出産～七五三) 復習(45分):プリント13(通過儀礼1:妊娠～出産～七五三) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。				

14	お話は語る その8	予習(30分):プリント14(通過儀礼2:成年式～結婚～還暦) 復習(45分):プリント14(通過儀礼2:成年式～結婚～還暦) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。	
15	お話は語る その9	予習(30分):プリント15(通過儀礼3:死と供養) 復習(45分):プリント15(通過儀礼3:死と供養) 時間外学修は、上記復習時間以外にも必要なため、不足している分は休日等を活用して行うこと。	
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)			学生の理解をうながすために必要に応じて映像資料なども活用する予定である。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			
③:ディスカッション・ディベート			
④:グループワーク			
⑤:プレゼンテーション			
⑥:実習・フィールドワーク			
【課題のフィードバック】			
学生の理解度を確認するために時折、授業時に小テストも実施する予定である。			
【成績の評価方法】			
課題レポート70%、小テスト20%、 課題レポート70%、小テスト20%、授業への参加度10%を加えた総合的な評価を行なう。			
【生成AI利活用（ 無 ）】			
【ルーブリック評価:(無)】			
【履修申請上の条件】			
文化は人間関係の基礎を形作るものです。どうかアンテナを張り巡らして柔軟な思考で好奇心をもって臨んで下さい。			
【教科書】			
特になし、毎時プリントを配布します。。			
【参考書】			
受講時に随時指示します。			
【オープンな教育リソース】			
特にありません。			
【担当教員の実務経験】			
特になし。			
【オフィスアワー】			
質問等がある場合は、学務課へ申し出ること。			
【教員連絡先】			
tkaneko@g.t-junshin.ac.jp			
【備考】			
特になし。			

授業科目名	合唱音楽	担当教員名	田中 路				
コード	22JUN108	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○			
年次／期間	4年次／後期	単位／時間数／形態	1単位／30時間／演習				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
○	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。						
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。						

【授業の概要】

歌うという行為は、楽器を奏すること以上に人間の身体に直接結びつき、合唱することは、集団を作るという人間の最も基本的な行為に根差したものであるといえる。本授業は、他者の声や他者が奏でる音に耳を傾け、響きを共有する意識を持った合唱表現の探求を目的とする。原則として毎回の授業では、合唱音楽の歴史を概観し、その上で楽曲の内容、響きを感じながら合唱表現を行う。また合唱表現と併せて、イングリッシュハンドベルの演奏実践も行い、クリスマスに行われる演奏会や演奏奉仕で発表する。合唱と合奏の双方を学び、アンサンブルの難しさと喜びを、音楽を通して各人が体験し、それを音楽以外の協働する場に活かすことができるよう学びを深める。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					ディプロマ・ポリシー				
					①	②	③	④	⑤
1 自分の声、自分の音を見つめ、声楽的な発声法に習熟する。					○	○			
2 他者の声、音に耳を傾け、他パートと協調しながら音楽表現を工夫することができる。					○	○			
3 合唱音楽の歴史、様式について理解し、歌唱楽曲の特徴を説明することができる。					○	○			
4 イングリッシュハンドベルの奏法を理解し、演奏することができる					○	○			

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション:授業の概要、授業の進め方などについての説明	田中	復習(1時間):復習用参考音源を鑑賞する。
2	合唱の基礎 グレゴリオ聖歌(Ave Maria)、東京純心大学大学歌	田中	予習(30分):歌詞の意味を確認し、声に出して読む。音源、ピアノ等を使い担当パートを練習する。 練習用音源を聴き他パートの音に耳を傾ける。復習(30分):復習用音源を鑑賞する。
3	ルネサンス・バロックの合唱音楽	田中	予習(30分):歌詞の意味を確認し、声に出して読む。音源、ピアノ等を使い担当パートを練習する。 練習用音源を聴き他パートの音に耳を傾ける。復習(30分):復習用音源を鑑賞する。
4	古典派の合唱音楽	田中	予習(30分):歌詞の意味を確認し、声に出して読む。音源、ピアノ等を使い担当パートを練習する。 練習用音源を聴き他パートの音に耳を傾ける。復習(30分):復習用音源を鑑賞する。
5	ロマン派の合唱音楽	田中	予習(30分):歌詞の意味を確認し、声に出して読む。音源、ピアノ等を使い担当パートを練習する。 練習用音源を聴き他パートの音に耳を傾ける。復習(30分):復習用音源を鑑賞する。
6	近現代の合唱音楽・ポピュラー音楽	田中	予習(30分):歌詞の意味を確認し、声に出して読む。音源、ピアノ等を使い担当パートを練習する。 練習用音源を聴き他パートの音に耳を傾ける。復習(30分):復習用音源を鑑賞する。
7	NHK全国学校音楽コンクールの課題曲の分析	田中	予習(30分):歌詞の意味を確認し、声に出して読む。音源、ピアノ等を使い担当パートを練習する。 練習用音源を聴き他パートの音に耳を傾ける。復習(30分):復習用音源を鑑賞する。
8	NHK全国学校音楽コンクールの課題曲の歌唱	田中	予習(30分):歌詞の意味を確認し、声に出して読む。音源、ピアノ等を使い担当パートを練習する。 練習用音源を聴き他パートの音に耳を傾ける。復習(30分):復習用音源を鑑賞する。
9	イングリッシュハンドベルの基礎	田中	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(1時間)
10	イングリッシュハンドベルのアンサンブル①:譜読み	田中	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(1時間)
11	イングリッシュハンドベルのアンサンブル②:音取り	田中	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(1時間)
12	イングリッシュハンドベルのアンサンブル③:合奏練習	田中	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(1時間)
13	「純心こどもの国のクリスマス」における演奏発表	田中	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(1時間)
14	「クリスマスチャリティオルガンコンサート」における演奏発表	田中	予習・復習:担当音を確認し、楽譜を見直す(1時間)
15	本授業のまとめ	田中	予習・復習:本番の演奏を振り返り、反省点を整理しておく(1時間)

【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）			
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）			
③:ディスカッション・ディベート			
④:グループワーク		○	
⑤:プレゼンテーション			
⑥:実習・フィールドワーク			

【課題のフィードバック】 課題プリントは毎回教員がチェックし、次回授業時に返却する。 音楽劇の準備については、次回授業時に教員がグループごとに進捗状況を確認する。
【成績の評価方法】 「純心こどもの国のクリスマス」「クリスマスチャリティオルガンコンサート」に向けた準備、授業全体に臨む姿勢60％。第15回で提出する振り返りシートの内容40％。 合計:100％ 【生成AI利活用（ 無 ）】 【 ルーブリック評価の活用（ 無 ）】
【履修申請上の条件】 12月に行われるクリスマスの演奏会（純心こどもの国のクリスマス、クリスマスチャリティオルガンコンサート、演奏奉仕など。詳細は第1回で説明）に必ず出演できること。グループワークが中心となるので、他の学生と互いに高め合いながら取り組むこと。授業時間外での準備が必要となる場合もあるので、協力し合って取り組むこと。メンバーが揃わないと練習に支障が出るため、欠席をしないこと。
【教科書】 特になし
【参考書】 特になし
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 特になし
【オフィスアワー】 火曜 12時15分～50分
【教員連絡先】 m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 特になし

【成績の評価方法】 授業参加度(課題への取り組み)50%、発表 50% 合計:100% 【生成AI利活用（ 無 ）】 【 ルーブリック評価の活用（ 無 ）】
【履修申請上の条件】 音楽とこどもの関わりに高い関心があること。研究の一環としてセミナー内で演奏(器楽や歌唱)をする場合があるので、楽譜を読むことや人前で演奏することに抵抗がないこと。
【教科書】 特になし
【参考書】 特になし
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 特になし
【オフィスアワー】 火曜 12時15分～50分
【教員連絡先】 m_tanaka@g.t-iunshin.ac.jp
【備考】 作成したデータは複数個所に保存すること。 メールで教員宛データを送付した場合には、24時間以内に教員からの返信がある。教員からの返信が確認できない場合には、データ未着と考え、直接教員にUSBでデータを提出すること。

現代文化学部

2025(令和7)年度

授業科目名	読書論A	担当教員名	佐野通夫						
コード	22LT1104	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生		
				○					
年次／期間	2～4年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義						
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】								
○	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。								
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。								
	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。								
【授業の概要】									
日本の公立学校で日本語指導が必要な児童生徒は、2021年、在留外国人数や外国籍の児童生徒数の増加傾向に伴い、外国籍の者で47,619人(16.8%増)であり、日本国籍の者は10,688人(3.1%増)である。この他、「外国につながる子ども」として、国籍を問わず、文化的言語的に多様な背景をもつ子どもがいる。日本での 30 年間の出生数をみると、「父母ともに日本」の子は減少しているものの、「父母ともに外国」の子は増加している。2019年には、日本で出生した子の25人に1人(4.0%)が、外国につながる子であった。このような育ちをした温又柔『台湾生まれ 日本語育ち』を読む。丁寧に読み進み、その上でイメージを拡充し、意見交換を大切に、「人間とは」「家族とは」「社会とは」等複合的に考えていきたい。内容により他の参考文献・資料等も活用する。									
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					ディプロマ・ポリシー				
					①	②	③	④	⑤
1 社会と個人の関係について考える。					○				
2 こどもからおとなまでの人間のこころの動きを視野を広く持ちながら考えることができる。					○				
3 自他共に尊重しあえる手掛かりを得る。					○				
【授業計画】									
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)						
1	オリエンテーション:授業の概要と履修上の留意点について検討する。	佐野通夫	予習:シラバスに目を通す(10分)。復習:9～29ページまでを読み、考える(170分)。						
2	「はじめに」を読み、意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)						
3	「朝鮮と日本のかかわり」を読み、意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)						
4	「父と兄に見守られて」を読み、意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)						
5	「はじめての外の世界」を読み、意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)						
6	「死のうとする父」を読み、意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)						
7	「朝鮮人という意識へのめざめ」を読み、意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)						
8	「酒井先生との出会い」を読み、意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)						
9	「戦争と死の決意」を読み意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)						
10	「戦後の歩み」を読み意見交換をする。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)						
11	関連する映画(前半)を見る。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)						
12	関連する映画(後半)を見る。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)						
13	関連する映画(前半)を見る。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)						
14	関連する映画(後半)を見る。	佐野通夫	復習:授業時の内容について想起する(10分)。予習:次回の内容について読み、考える(170分)						
15	本書全体について、意見交換をする。	佐野通夫	復習:本書及び参考資料等を通して考えたことをレポートにまとめる。1200字以上、書式自由(180分)。						
【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫						
①:PBL(課題解決型学習)		○	特になし						
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)									
③:ディスカッション・ディベート		○							
④:グループワーク									
⑤:プレゼンテーション									
⑥:実習・フィールドワーク									
【課題のフィードバック】									
授業時の意見交換等により、様々な考え方があることを、専門的知見や日常の出来事等を通してみていく。									
【成績の評価方法】									
課題:50% 小テスト:50% 定期試験:0% 合計:100%									
【生成AI利活用(無)】									
【ループリック評価の活用(無)】									

【履修申請上の条件】
2年次以降の選択科目であり、資格・免許に関係なく履修できる。
【教科書】
高史明『生きることの意味―ある少年のおいたち』ちくま文庫1986
【参考書】
適宜プリントを配布する
【オープンな教育リソース】
特になし
【担当教員の実務経験】
特になし
【オフィスアワー】
・木曜 3限
【教員連絡先】
msano@t-junshin.ac.jp
【備考】
保育・教職においては広い視野と自分で考えていく経験が大切になります。 また、保育・教職如何に拘わらず、こころというものに関心が深い方、人との関係を大事にしたい方は受講出来ますので、文献を参考にゆつくり考えていきましょう。

【履修申請上の条件】 3分に2以上の出席が必要です。
【教科書】 「家庭訪問保育の理論と実際(第3版)」 公益財団法人 全国保育サービス協会編 中央法規
【参考書】 特になし
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 保育士として乳幼児の保育に携わる、 保健センターの心理相談員として親子の相談支援、親子の遊び支援をする
【オフィスアワー】 水曜日 昼休みと午後4限終了後
【教員連絡先】 s_koizumi@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 今まで習ってきた保育士の知識・技術の復習に加えて、より実践的な保育が学べます。また、将来の保育の仕事の選択肢が増えます。

現代文化学部			2025(令和7)年度						
授業科目名	保育内容総論	担当教員名	小川 清美						
コード	22NUR422	区分 (必修・選択)	卒業必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生		
				○	○	○			
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／演習						
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】								
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。								
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。								
○	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。								
【授業の概要】									
幼稚園・保育所・認定こども園で行われている保育内容の構造について学び、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に書かれた保育の基本的な構造を理解する。そして保育所・幼稚園・認定こども園は、園生活全体を通して総合的に指導するという考え方を理解し、具体的な乳幼児の姿と関連づけながら環境を構成し実践するために必要な知識・技能を学修する。さらに「幼保小の架け橋プログラム」やこども家庭庁から出された「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン」、なかでも「はじめの100か月の育ちビジョン」等の今日的な諸問題についても学ぶ。卒業後、実際に保育に携わり、保育者となるときに、子どもの活動を予測し、保育内容を総合的に考えることができる保育者であることを目的とする。									
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							ディプロマ・ポリシー		
							①	②	③
1 保育所・幼稚園教育の基本を踏まえた保育所・幼稚園における指導の考え方を説明することができる。									○
2 保育所・幼稚園教育における指導計画の考え方を理解し、乳幼児の発達の過程を見通した指導計画作成することができる。									○
3 乳幼児の興味や関心や発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方を述べることができる。									○
【授業計画】									
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)						
1	保育内容総論の理解のために	小川	予習(2時間):シラバスを一読し、自分なりのイメージや理解をもって参加すること。 教科書15頁までをよく読んで理解を深めておく。 復習(2時間):「保育」ということばについて考えてみよう。						
2	なぜ保育内容総論を学ぶのかー保育の全体構造	小川	予習(2時間):教科書28頁までをよく読んで理解を深めておく。『保育所保育指針解説』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を毎回読んで理解を深めておくこと。 復習(2時間):「育みたい資質・能力」について今一度まとめよう。						
3	保育内容の歴史的変遷とその社会的背景	小川	予習(2時間):教科書39頁までをよく読んで理解を深めておく。『保育所保育指針解説』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を毎回読んで理解を深めておくこと。 復習(2時間):保育内容について考察を深めておこう。						
4	子どもの発達や生活に即した保育内容	小川	予習(2時間):教科書53頁までをよく読んで理解を深めておく。『保育所保育指針解説』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を毎回読んで理解を深めておくこと。 復習(2時間):子どもの発達について復習しておこう。						
5	養護と教育の一体性とは	小川	予習(2時間):教科書63頁までをよく読んで理解を深めておく。『保育所保育指針解説』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を毎回読んで理解を深めておくこと。 復習(2時間):「養護」の視点を探そう。						
6	子どもの生活と保育内容	小川	予習(2時間):教科書75頁までをよく読んで理解を深めておく。『保育所保育指針解説』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を毎回読んで理解を深めておくこと。 復習(2時間):子どもにとっての主体性・自発性について考えよう。						
7	子どもの遊びと保育内容	小川	予習(2時間):教科書90頁までをよく読んで理解を深めておく。『保育所保育指針解説』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を毎回読んで理解を深めておくこと。 復習(2時間):子どものころに遊んだことを思い出そう。なぜ、楽しかったのかその理由を考えよう。						
8	環境を通して行う保育	小川	予習(2時間):教科書108頁までをよく読んで理解を深めておく。『保育所保育指針解説』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を毎回読んで理解を深めておくこと。 復習(2時間):あなたが実習に行った保育所・幼稚園等の環境を思い出そう。						
9	保育における「領域」ー保育のねらいと内容	小川	予習(2時間):教科書121頁までをよく読んで理解を深めておく。『保育所保育指針解説』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を毎回読んで理解を深めておくこと。 復習(2時間):保育における領域の意味について再考しよう。						
10	保育における「領域」ー記録・計画・評価と領域の関係	小川	予習(2時間):教科書139頁までをよく読んで理解を深めておく。『保育所保育指針解説』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を毎回読んで理解を深めておくこと。 復習(2時間):街中で子どもが遊んでいる場面を見て、記録し考察してみよう。						
11	多様な保育の場における保育内容ー地域型保育	小川	予習(2時間):教科書150頁までをよく読んで理解を深めておく。『保育所保育指針解説』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を毎回読んで理解を深めておくこと。 復習(2時間):具体的に地域にどのようなものがあるか調べてみよう。						
12	多様な保育の場における保育内容ー延長保育・預かり保育	小川	予習(2時間):教科書158頁までをよく読んで理解を深めておく。『保育所保育指針解説』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を毎回読んで理解を深めておくこと。 復習(2時間): 地域の具体的な保育の実際を調べてみよう。						
13	様々な配慮を要する子どもの保育	小川	予習(2時間):教科書169頁までをよく読んで理解を深めておく。『保育所保育指針解説』『幼稚園教育要領解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を毎回読んで理解を深めておくこと。 復習(2時間): 実習で出会った該当する子どもについて思い出そう。						

14	小学校教育との接続	小川	予習(2時間):教科書180頁までをよく読んで理解を深めておく。『小学校学習指導要領』を読んでおく。 復習(2時間):小学校教育の変化について関心を持って調べてみよう。	
15	現代社会の特質と保育内容	小川	予習(2時間):教科書188頁までをよく読んで理解を深めておく。 復習(2時間): 子どもにとって保育者はどのような存在なのかを考えてみよう。	
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)			○	
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)				
③:ディスカッション・ディベート			○	
④:グループワーク			○	
⑤:プレゼンテーション			○	
⑥:実習・フィールドワーク				
【課題のフィードバック】				
フィードバックは次回の授業時に行う。				
【成績の評価方法】				
・授業内でのレポート(30%) ・授業内でのグループ活動に意欲的に参加しているか(20%) ・定期試験に代わるレポート(50%)				
【生成AI利活用（ 無 ）】				
【 ルーブリック評価の活用（ 無 ）】				
【履修申請上の条件】				
・日頃から保育・幼児教育に関して情報収集し、自らの学習課題を明確にしておくこと。 ・期限内に課題を提出すること。 ・教科書をよく読んで理解を深めておく。 ・『保育所保育指針解説』/『幼稚園教育要領解説』/『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』を毎回読んで理解を深めておく。				
【教科書】				
『演習 保育内容総論 保育の総合性を読み解く』(神田伸生・高橋貴志編著)萌文書林				
【オープンな教育リソース】				
特になし				
【参考書】				
文部科学省『幼稚園教育要領解説(平成30年3月)』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説(平成30年3月)』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)』フレーベル館				
【担当教員の実務経験】				
特になし				
【オフィスアワー】				
・火曜日:昼休み				
【教員連絡先】				
kogawa@g.t-junshin.ac.jp				
【備考】				
特になし				

現代文化学部			2025(令和7)年度				
授業科目名	教職・保育実践演習	担当教員名	舟生 直美				
コード	22NUR423	区分 (必修・選択)	卒業必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○	○	○	
年次／期間	4年次／後期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／演習				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。						
◎	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。						
【授業の概要】							
本科目は、保育に関する基礎的理解の習得、保育実習を通じた実践的理解を踏まえた上で、実際に保育職に就くにあたっての実践力をさらに高め、現代的課題について討議するなど、4年間の総括的な内容とする。 具体的には、演習や観察など学内の自然を有効に活用した実践的取り組み、平成30年度実施の3法令の内容を踏まえた実践的取り組み(保育活動の創出、深い子ども理解)を行う中で、保育者としての使命感、責任感を改めて捉え直し、目指すべき保育者像を探る。そして、卒業後も生涯学び続けながらキャリアアップし、情報を更新していく自律的な態度を身に着ける。なお、レポート等の提出物のやりとり、及びフィードバックについてはクラスルームを活用する。							
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】							ディプロマ・ポリシー
							① ② ③
1 これまでの学び及び実習を総括的に振り返り、自己の課題を自覚し、克服する方法を導出できるようになる。							○
2 実践的取り組みを通じて、深い子ども理解や保育者として必要なスキルの習得などの実践力向上を図ることができる。							○
【授業計画】							
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)				
1	オリエンテーション及び教職カルテの確認 ―本授業の内容の説明、これまでの学修の振り返り―	舟生	予習:本授業のシラバスを一読する 復習:教職カルテのまとめ (計4時間)				
2	これまでの実習の振り返りをもとにした自己課題の導出	舟生	予習:これまでの実習経験を振り返り、自己の課題を整理しておく 復習:授業内容を踏まえた上で、自己課題をまとめる 教職カルテは随時更新していく。 (計4時間)				
3	保育に関する基礎的理解の確認(講義、調べ学習等)	舟生	予習:授業内で提示した範囲の内容を理解を深める 復習:授業時に配布したプリントを仕上げる (計4時間)				
4	指導計画の必要性に関する再考 ―保育におけるPDCAサイクルの視点から探る―	舟生	予習:指導計画とは何か、書物やインターネットをなどを活用して調べておく 復習:授業内での作成した指導計画を完成させる (計4時間)				
5	長期的指導計画に基づく保育活動の創出 ―各園の特色や地域性を活用した保育の計画の実際―	舟生	予習:前回の講義で設定したテーマに沿った保育活動を考え、まとめておく 復習:創出した保育活動を精査しておく (計4時間)				
6	指導案の作成及び保育教材準備	舟生	予習:自ら創出した保育活動を、指導案作成ができるように準備しておく 復習:指導案の作成の続き及び発表に向けた保育教材準備 (計4時間)				
7	ドキュメンテーション記録作成の意義と留意点	舟生	予習:模擬保育時の写真や振り返り内容を整理し、まとめる 復習:ドキュメンテーション記録について各自で調べ、理解を深める (計4時間)				
8	現代的課題の理解①:保育における現代的課題とは	舟生	予習:保育における現代的課題について、書物やインターネット等を活用して整理し、 まとめておく 復習:与えられたテーマについて各自で調べ、まとめておく (計4時間)				
9	現代的課題の理解①:討論及び発表	舟生	予習:討論及び発表ができるようにテーマの内容について理解を深める 復習:討論及び発表を終えて各自不足していた項目について理解を深めておく (計4時間)				
10	現代的課題の理解②:保育における現代的課題とは	舟生	予習:保育における現代的課題について、書物やインターネット等を活用して整理し、 まとめておく 復習:与えられたテーマについて各自で調べ、まとめておく (計4時間)				
11	現代的課題の理解②:討論及び発表	舟生	予習:討論及び発表ができるようにテーマの内容について理解を深める 復習:討論及び発表を終えて各自不足していた項目について理解を深めておく (計4時間)				
12	保育を創る実践的理解① ―自分のよさを再認識する―	舟生	予習:自己理解を踏まえて、子どもの前で実施したい取り組みを考え、準備する 復習:発表に向けたの準備 (計4時間)				
13	保育を創る実践的理解② ―子どもとの出会いを創造する―	舟生	予習・復習:発表に向けた準備 (計4時間)				

14	保育を創る実践的理解③ —保護者との出会いを創造する—	舟生	予習:担当箇所の準備 復習:発表に向けた準備 (計4時間)	
15	保育者としての自己の課題の明確化:保育者としての私の課題は何か	舟生	予習:これまでの授業内容を、配布資料を参考に確認する (計4時間)	
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫
①:PBL(課題解決型学習)			○	・授業は主にプロジェクター(パワーポイント)を用いて説明する。 ・演習場面においては、実際の子どもを映したビデオ教材を使用して自己の考えをまとめる際やグループワーク等に活用している。 ・学生の立案した保育案や発表資料等においては、学生同士が共有できる方法としてGoogleドライブを活用して可視化・共有する。
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)			○	
③:ディスカッション・ディベート			○	
④:グループワーク			○	
⑤:プレゼンテーション			○	
⑥:実習・フィールドワーク			○	
【課題のフィードバック】				
・課題レポートに対するフィードバックは、次回講義時に行う。 ・クラスルームに提出されたレポート等にはコメント等を記入してフィードバックし全体での共有を図る。				
【成績の評価方法】				
・授業参加度 30% 授業内での発表 30% 小レポート・提出物・課題等 40%				
【生成AI利活用（ 無 ）】				
【 ルーブリック評価の活用（ 無 ）】				
【履修申請上の条件】				
・事前にこれまでの学修を振り返り、自己の課題を明確にしておくこと。				
【教科書】				
・改訂2版 保育教職実践演習 これまでの学びと保育者への歩み—幼稚園・保育所編 編集小櫃 智子，矢藤 誠慈郎 わかば社 ・保育所保育指針解説 平成30年3月(2018) フレーベル館 厚生労働省 ・幼稚園教育要領幼稚園教育要領解説 平成30年3月(2018) フレーベル館 文部科学省 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月 (2018) フレーベル館 内閣府 文部科学省				
【参考書】				
・幼稚園教育要領(平成29年告示) 文部科学省 フレーベル館 ・保育所保育指針(平成29年告示) 厚生労働省 フレーベル館 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示) 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館				
【オープンな教育リソース】				
特になし				
【担当教員の実務経験】				
・小学校教諭・教育指導行政の経験をもとに教育・福祉・保育などの実際場面に必要な知識・技能について指導する。 ・実習中及び実習後の事後指導においては、学生の困難や反省を共感的に理解し、克服する方法を共に導出していく。				
【オフィスアワー】				
木曜日 10:40～12:10				
【教員連絡先】				
nfunyu@g.t-junshin.ac.jp				
【備考】				
特になし				

授業科目名	教育実習(幼Ⅱ)	担当教員名	田中 路						
コード	22NUR434	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生		
				○	○				
年次／期間	4年次／集中	単位／時間数／形態	2単位／30時間／演習						
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】								
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。								
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。								
○	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。								
【授業の概要】									
幼稚園教職課程における実習として、幼稚園での2週間の参加・指導を主とした実習を行う。教育実習(幼Ⅰ)における実習の経験及び自己の課題を踏まえ、実際の保育者を想定した上で様々な目標や計画を立て、目標及び計画に基づいて実践していく。保育終了後は、担当の幼稚園教諭より指導・助言をいただき、その内容を踏まえて実習日誌の記録を作成し、自らの保育実践を振り返る。自身の客観的な評価をもとに、新たな目標・計画を立てて翌日の保育に臨むという一連の取り組みを積み重ねていく。日誌の他、指導案の作成も行い、作成した指導案に基づいて活動を行う。なお、実習期間中は原則として部分実習・責任実習(1日実習)の機会をいただき、指導実習を行う(ただし実習協力園の方針による)。									
【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】					ディプロマ・ポリシー				
					①	②	③	④	⑤
1 幼稚園教諭としての職務を理解し、指導案の立案・保育準備が自分で行えるようになる。							○		
2 部分実習や責任実習を通して、保育実践における自己の課題を見出し、克服の方法を探索することができる。							○		
3 幼稚園教諭として責任ある態度や行動を身に付け、幼稚園教諭として適切な言葉かけが行えるようになる。							○		
【授業計画】									
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)						
1	幼稚園教諭一種免許状を取得するための必修の実習として、幼稚園において教育実習を行うものである。 (1) 実習園 原則として、学生の現住所付近の公共交通機関を用いて1時間以内の協力幼稚園において実施する。実習園への依頼は約1年前から手続きを始める。 (2) 実習時期 原則として、4年次6月の2週間を予定している。実習前の2ヶ月前には個人票を作成する。実習1カ月前には実習園へオリエンテーションを実施する。 (3) 実習形態 実習園の指導方針に従って実習を行う。部分実習や責任実習では、自分で立案、実践、振り返りを行うとともに、実習園の指導者の助言をもとに、次につなげていけるよう努力すること。実習後は、反省や振り返り、自己のテーマについてなどのページを漏れなく記入し、実習終了後1週間以内に実習園に提出する。	田中	・保育者の仕事は、同僚や家庭、地域との連携など様々な人と関わるため、コミュニケーション力と他者と協働する力が求められる仕事である。そのため、受講生は日頃から礼儀、言葉遣い・態度に気をつけ、学校行事や課外活動などを通して、積極的に協働的な活動に参加しておくことが望ましい。 ・健康管理を充分しておくこと(実習生としての活動に支障がある場合、実習に参加できないこともある)。						
【アクティブラーニング】			チェック欄	その他の工夫					
①:PBL(課題解決型学習)			○	特になし					
②:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)									
③:ディスカッション・ディベート									
④:グループワーク									
⑤:プレゼンテーション									
⑥:実習・フィールドワーク			○						
【課題のフィードバック】									
・巡回指導の際に学生から聞かれた質問に対しては、即時に回答及び助言を加える。 ・実習日誌の指導に関しては、巡回指導の際に必要な箇所をその場で指導する。									
【成績の評価方法】									
・実習園からの成績評価をもとに、実習日誌への適切な記入、関係書類(オリエンテーション報告書、実習報告書等)の適正な提出により総合的に評価する。 ・但し、実習後以下のことを怠った場合は、実習単位は認められない。 (1) 大学に対して、実習日誌・報告書を定められた期限に提出できなかった場合。 (2) 実習園に対して、必要な書類等の提出・受取ができなかった場合。									
【生成AI利活用(無)】									
【ループリック評価の活用(無)】									
【履修申請上の条件】									
・幼稚園教職課程必修である。並行して事前事後指導の「教育実習指導(幼II)」を必ず受講しなければならない。 ・「教育実習(幼Ⅱ)」の実施にあたっては、事前に「教育実習指導(幼Ⅰ)」「教育実習(幼Ⅰ)」の全ての単位が認定されていること。 ・健康状態や生活態度が芳しくない者については、実習を認めない場合がある。 ・大学で実施する健康診断を受けておくこと。必要な予防接種は済ませておくこと。 ・実習実施にあたっては、その内容等は実習園の指示に従うこと。									
【教科書】									
・教育実習指導(幼II)の授業で、適宜プリントを配布するので、各自ファイルして熟読しておくこと。 ・他に、教育実習指導で配布した実習の手引き及び実習日誌を必ず持参すること。									
【参考書】									
・文部科学省(2017)『幼稚園教育要領』フレーベル館 ・文部科学省(2018) 幼稚園教育要領解説 フレーベル館									
【オープンな教育リソース】									
特になし									
【担当教員の実務経験】									
特になし									
【オフィスアワー】									
水曜日 12:10～13:00									

【教員連絡先】
m_tanaka@g.t-junshin.ac.jp
【備考】
協力実習園での実習となる。実習に際しては次の点に留意すること。 (1) 実習園から提出を求められた書類(健康診断書や細菌検査等)については、各自で各証明書を手配すること。 (2) 実習前に実習園でのオリエンテーションを受ける。オリエンテーション後は、その内容については実習日誌の所定の欄に記載し、同時に「実習園オリエンテーション報告書」を速やかに担当教員に提出すること。 (3) 実習期間中は実習園の実習方針に従って実習を行い、日々の実習内容を実習日誌に整理し、実習園の指導者に提出すること。指導案等の提出が必要な場合は、実習園の指示に従って遅延なく提出し指導を受けること。 (4) 実習終了後は実習施設の指示に従って実習日誌などの提出・受取を確実に行之、終了後すみやかにお礼状をお送りすること。 (5) 実習中のアルバイトは禁止である。実習前1週間もアルバイトは控え、体調を万全にして実習に臨むこと。 (6) 実習中の遅刻は厳禁である。欠勤もしないよう、実習前より健康管理をしっかり行うこと。 (7) 幼稚園及び大学への提出物は、締め切りを厳守すること。

授業科目名	教育相談	担当教員名	小泉 左江子				
コード	22PSY203	区分 (必修・選択)	必修	選択	幼稚園教職課程	保育士課程	多文化共生
				○	○	○	
年次／期間	4年次／前期	単位／時間数／形態	2単位／30時間／講義				
チェック欄	【ディプロマ・ポリシー】						
	① 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。						
	② 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。						
○	③ こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。						

【授業の概要】

この科目は、ディプロマ・ポリシー「こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる」ための講義科目である。

教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え支援するために、保護者の心理の理解も含め、必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を理解する。具体的には、教育相談の意義と基本的な理論、カウンセリングマインド、相談に乗るためのさまざまな技法について学び、ロールプレイなどを行う。また、教育相談の具体的な進め方や園内の教育相談体制、外部機関や専門機関との連携についても学ぶ。

【授業の到達目標・ディプロマ・ポリシーとの関係】	ディプロマ・ポリシー				
	①	②	③	④	⑤
1 教育相談の意義と課題を理解して説明できる。			○		
2 教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的知識を含む)を身につけている。			○		
3 幼児の発達段階や発達課題に応じた教育相談の具体的な進め方を説明できる。			○		
4 教育相談に必要な園内体制の整備等、組織的な取り組みの必要性を説明できる。			○		
5 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を説明できる。			○		

【授業計画】			
	授業計画	担当者	授業外学修(予習・復習・課題等)
1	オリエンテーション:教育相談とは何をするのか 教育相談の意義と課題を理解する	小泉	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):授業内容の関心のあるところについて図書館で専門書や事典等で調べる。
2	子ども理解① 子どもの行動をどう理解するか:子どもの気持ちや行動の背景を考える	小泉	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):授業内容の関心のあるところについて図書館で専門書や事典等で調べる。
3	子ども理解② 子どもの表現方法を知る:言葉以外の表現方法 観察と検査の重要性	小泉	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):授業内容の関心のあるところについて図書館で専門書や事典等で調べる。
4	保護者への支援① 保護者の心理を理解する 保護者が何を望んでいるかを知る	小泉	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):授業内容の関心のあるところについて図書館で専門書や事典等で調べる。
5	保護者への支援② 保護者を支援するとはどういうことか 障害の受容について知る	小泉	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):授業内容の関心のあるところについて図書館で専門書や事典等で調べる。
6	カウンセリングマインド① カウンセリングマインドとは何かを知る	小泉	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):授業内容の関心のあるところについて図書館で専門書や事典等で調べる。
7	カウンセリングマインド② カウンセリングマインドに基づいたかわりについて学ぶ	小泉	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):授業内容の関心のあるところについて図書館で専門書や事典等で調べる。
8	カウンセリングの技法① 傾聴 と 非言語的コミュニケーションを意識した態度	小泉	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):授業内容の関心のあるところについて図書館で専門書や事典等で調べる。
9	カウンセリングの技法② 言語によるさまざまな応答技法 / 認知行動療法とは	小泉	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):授業内容の関心のあるところについて図書館で専門書や事典等で調べる。
10	教育相談体制:園内の教育相談体制と事例検討会	小泉	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):授業内容の関心のあるところについて図書館で専門書や事典等で調べる。
11	外部機関との連携:外部相談機関との連携について理解する	小泉	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):授業内容の関心のあるところについて図書館で専門書や事典等で調べる。
12	保育者の役割 と 保育者のメンタルヘルス	小泉	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):授業内容の関心のあるところについて図書館で専門書や事典等で調べる。
13	子どもの精神保健① 子どもの心の健康に関わる問題について調べる	小泉	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):子どもの心の健康にかかわる問題について図書館で専門書や事典等で調べる。
14	子どもの精神保健② 子どもの心の健康に関わる問題について発表する	小泉	予習(2時間):子どもの心の健康に関わる問題について発表する準備をする。 復習(2時間):子どもの心の健康に関する発表について、感想をまとめる。
15	まとめ	小泉	予習(2時間):テキスト該当箇所を読み、関連書物を読む。 復習(2時間):授業内容についてにまとめをする。

【アクティブラーニング】		チェック欄	その他の工夫
①:PBL（課題解決型学習）		○	
②:反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）			
③:ディスカッション・ディベート		○	
④:グループワーク		○	
⑤:プレゼンテーション			
⑥:実習・フィールドワーク			

【課題のフィードバック】 課題のフィードバックは次の時間に授業内で行う。
【成績の評価方法】 課題:50% 定期試験:50% 合計:100% 【生成AI利活用（ 無 ）】 【 ルーブリック評価の活用（ 無 ）】
【履修申請上の条件】 幼保資格取得を希望する学生は受講が必要になる。
【教科書】 杉崎雅子「スギ先生と学ぶ教育相談のきほん」萌文書林
【参考書】 参考資料は授業中に適宜配布する。参考書:『幼稚園教育要領』(文科省)、保育所保育指針(厚労省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(厚労省)
【オープンな教育リソース】 特になし
【担当教員の実務経験】 保育士及び心理相談員として、子どもの発達と課題を早期発見し、保護者と連携して対応してきた経験を生かして授業を行う。
【オフィスアワー】 水曜日の昼休み及び4限以降
【教員連絡先】 s_koizumi@g.t-junshin.ac.jp
【備考】 特になし